



香港事務所

NCB 海外レポート

大湾区の未来と可能性③

～大湾区における越境交通・物流の進化～

◇ 越境交通の多様化が進む

- 従来、香港と中国広東省との往来は鉄道やバス、フェリーなどが主流でしたが、近年は移動手段やルートも多様化が進み、一つの経済圏として繋がりを深めています。
- 2018年9月、広東省と香港を結ぶ広深港高速鉄道が開業しました。これにより、従来2時間近くかかっていた香港（西九龍）一広州（広州南）間は最短47分に短縮され、香港（西九龍）一深圳（福田）間は最短14分で往来が可能となりました。
- また、同年10月には、広東省珠海市・マカオ・香港を結ぶ港珠澳大橋(HZMB)も開通しました。世界最長級（全長55km）の海上横断橋であるHZMBの開通により、香港から珠海への車での移動時間は、4時間からわずか約40分にまで短縮されています。
- 2023年6月には、香港居住者の自家用車による広東省への移動を可能とする「港車北上」スキームが導入されました。香港から中国広東省への自家用車での移動制限が緩和され、従来、必要とされていた「両地車牌（ダブルナンバー）」の取得や保証金の納付などの手続きが不要となり、所定の手続きを経ることで、HZMB経由で香港と広東省の間を、比較的自由に移動することができます。



落馬洲（Lok Ma Chau）口岸
※香港から深圳への入境ポイント
(香港駐在員事務所撮影)

◇ 世界有数の航空輸送能力の更なる進化を目指す

- 2023年4月、広東省東莞市で「東莞一香港国際空港センター」が正式運用を開始しました。同センターは中国本土で生産された輸出用製品を香港国際空港から効率的に輸出するために整備された物流施設です。
- 従来、香港国際空港から輸出される中国産の貨物は、中国側の保税区にて輸出貨物の通関手続きを行った後に深圳から香港へ陸路で輸送し、香港国際空港へ到着後に保安検査やパレタイズ（航空機積み込みの為のパレットへの搭載作業）を行っていました。
- しかし同センターの稼働後は、通関・保安検査・パレタイズを一括実施した後に、香港国際空港のエアサイドカーゴターミナルへ直接海路で運ばれるため、輸送コストと貨物処理時間の大規模な削減が期待されています。
- 昨今、中国での製造活動はコスト高となることが意識されがちですが、こうしたインフラ面の改善により競争力を強化することが、大湾区計画の狙いの一つでもあると考えられます。



香港国際空港
(香港駐在員事務所撮影)

2023年7月26日作成

西日本シティ銀行香港駐在員事務所